

令和7年度 第4回 恵那市ICT活用推進委員会 議事録

日時: 令和8年3月19日(木) 午前10時00分

場所: 恵那市役所 会議棟 大会議室

1. 開会

2. 議事

(1) パブリックコメントについて

資料No.1

(2) 恵那市DX推進計画について

資料No.2~4

(第3期恵那市ICT活用推進計画)

(3) 次年度の取り組みについて

資料No.5

3. その他

(1) 連携協定取組状況について

資料No.6

4. 閉会

■委員

	選出区分	団体名	氏名
1	学識経験者	法政大学理工学部	藤井 章博
2	学識経験者	法政大学大学院	山崎 泰明 (オンライン)
3	商工団体	恵那商工会議所	古山 紀昭 (欠席)
4	商工団体	恵那市恵南商工会	瀬戸 利之
5	教育団体	恵那市小中学校校長会	可知 浩幸
6	防災団体	恵那市防災研究会	岩井 慶次
7	福祉団体	恵那市社会福祉協議会	紀岡 伸征
8	その他団体	恵那市地域自治区会長会議	小木曾 信夫
9	副市長	恵那市	柘植 克久

■DX推進監

1	情報政策課 (ソフトバンク株式会社)	竹内 武司
---	--------------------	-------

(事務局) 情報政策課 沼田、鈴木、原、小坂、森山

ソフトバンク株式会社 小林

■傍聴者 4名

0. 資料確認・事前アナウンス

■事務局（進行）

おはようございます。会議の前に先立ちまして、会議資料の確認をさせていただこうかと思っておりますので、よろしくお願いいたします。本日の会議はペーパーレス会議ということで、紙の配布はしておりませんので、よろしくお願いいたします。お手元のノートパソコンに資料をご用意させていただいておりますので、そちらが開けるかどうか、ご確認いただくようお願いいたします。まず一つ目が次第、資料が1から6まで、今回は用意させていただいております。資料ナンバー1が「パブリックコメントの結果と市の考え方」、資料ナンバー2が「恵那市DX推進計画について」、ナンバー3が「恵那市DX推進計画の概要版」、資料ナンバー4が「全体スケジュール」、資料ナンバー5が「次年度の取り組みについて」、資料ナンバー6が「連携協定取り組み状況について」となりますので、よろしくお願いいたします。資料が開けないという事がありましたら、お申し出ください。本日会議ですが、前のスクリーンにも表示させていただいておりますが、ちょっと見えづらいですので、お手元のノートパソコン、または紙の資料で、ご確認いただくようによろしくお願いいたします。

1. 開会

■事務局（進行）

皆様おはようございます。本日は、年度末の大変お忙しいところ、ICT活用推進委員会ということでお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。進行を務めます情報政策課長の沼田でございます。よろしくお願いいたします。本日第4回目ということで、前回3回目が1月15日に開催をさせていただいたところです。その場では、委員の皆様からは、大学との連携であるとか、情報セキュリティの重要性であるとか、あとデジタルデバイス対策、目標設定、こういったところに関して、多くの意見を頂戴いたしました。それから1月26日から2月25日まで、1ヶ月間かけまして、パブリックコメントを募集させていただきました。その結果、1件のご意見を頂戴いたしましたので、本日そのご意見を踏まえた、修正案をご用意させていただいておりますので、ご審議をいただきながら、本計画最終確定ということで、本日ご協議をしていただければありがたいなと思っております。本日委員会は全体で9名のうち8名のご参加をいただいております。1名、山崎先生につきましてはオンラインでのご参加ということ。古山委員につきましては事前にご欠席のご連絡をいただいているというところになりますので、よろしくお願いいたします。また本日の会議につきましては、公表・公開というところがございます。傍聴席のご用意と、会議結果につきましては、市ウェブサイトにて公開をさせていただければと思っておりますので、よろしくお願いいたします。10時からの会議というこ

とで、おおむね1時間を予定しております。これより次第に沿って、進めてまいりたいと思いますので、藤井委員長の方で、挨拶を含めて進行の方、どうぞよろしく願い申し上げます。

■藤井委員長

ありがとうございました。藤井でございます。世界情勢、予断を許さないところで、この先、ドラスティックな何か、変化というものが、もし起きてくるかもしれないということですが、これまで粛々と進めてきた計画を次年度に向けて加速させていこうということになると思います。よろしく願いいたします。それでは資料No.1「パブリックコメントについて」から資料No.2～4「恵那市DX推進計画について」を事務局から説明していただきたいと思います。よろしく願いします。

2. 議事

(1) パブリックコメントについて 資料No.1

(2) 恵那市DX推進計画について 資料No.2～4

[事務局から資料No.1～No.4に基づき説明]

■藤井委員長

はい、鈴木さんありがとうございました。パブリックコメントから始まって、詳細、計画の詳細と概要版、それから実施のスケジュールについて、ご説明ありましたけれども、委員の皆様からご質問等はございますか。はい、可知委員お願いします。

■可知委員

はい。パブリックコメントの中で、コンビニでの発行ということを知らないという方が42%というふうに出ていました。実は私は知っていますが、この前住民票が必要だったので。たまたま市役所に寄る用事があったものですから、ついでに、住民票を交付してもらったのですが。窓口で『コンビニで取得すると安いですよ』というふうに教えてもらって。それも分かってはいますが、ついでに市役所で、そういうことがありました。なので、市役所の中に銀行と同じような感じで、ATMみたいなそういうコーナーを作っていて、そこで安く交付ができるような、そういうサービスができるといいのかな？なんてことをその時に感じました。

■藤井委員長

ありがとうございます。あと今の話に関連して、私ども地方というか、もっと恵那の遠くにいる場合は、コンビニ交付はすごく便利なのです。

他にご意見ありますでしょうか。

それでは、続きまして、次年度の取り組みの方に入っていきたいと思います。

■事務局（進行）

はい。可知委員からお話しいただきましたコンビニ交付ですが、現在はコンビニで夜11時まで、住民票であるとか、戸籍、あと税関係の証明を、マイナンバーカードを持っていくことによって、発行できるというところですが、発行にかかる手数料は、市役所や振興事務所の窓口であると、1通あたり住民票であれば300円、コンビニ交付につきましては、利用を深めていただくということで、1通あたり200円というところで割引をさせていただいております。それによりまして、利用者も年々増えてきております。例えば、前回の会議でもお知らせしたように、4月から12月までのコンビニ交付が愛知県では241件、東京都でも31件ということで、今、藤井先生のご在住の関東圏でも実績があるということで、市役所が開いていない時間帯、あとコンビニという利便性の高いスポットで、利用できるというところですが、あと今、可知委員の、ご指摘は、さらに、そういった端末を市役所の中であるとか、その別の場所にもということでありますので、そういったところも、今後考える必要があるのかなと思っています。特に、私ども内部で話をしておるのは、コンビニがないエリアも実は恵那市内にはたくさんありますので、そういったところなんかには、手立てを今後考えていく必要があるのかなというふうに思っております。それでは、引き続きまして、次年度の取り組みというところについて、議事項目となっておりますので、資料ナンバーとしては、資料No.5についてご説明させていただきます。

(3) 次年度の取り組みについて 資料No.5

[事務局から資料No.5に基づき説明]

■藤井委員長

オリヒメの取り組みは、障害者の人のためにじゃなくて、障害者の人が、ロボットを通じて外で働く、そういう話ですよね。

■事務局（進行）

はい、そうです。働いたりとか、社会とつながる機会を増やしていこうというところが

目的になっております。先般も、オリヒメの取り組みについては、オリヒメというロボットを展開されている株式会社オリィ研究所の吉藤さんという方が、恵那の防災センターの方でご講演をされまして、こういったロボットとデジタルの仕組みでもって、今まで外へ出られなかった方々の機会を増やしていく、実際の事例であるとか、考え方の指南をいただくような講演会も開催をしていただいで、多くの方にご参加していただいたところでございます。

■藤井委員長

日本橋のカフェですね。

■事務局（進行）

そうですね、日本橋にドーンというカフェがありまして、9割ぐらいのお客様が外国の方だそうです。そういったご紹介もいただいたところでは、自動運転を恵那市でも、東濃5市と下呂市含めた6市でコンソーシアムを構成し、実証実験を行いました。岩村町の本通りを中心として、まだ無人化とは至っておりませんが、自動運転の実験が開始されたところです。この実証事業を、引き続き来年度も実施していくという取り組みになっております。このような取り組みを含めて、次年度1年間、この計画のテーマに沿った内容を、また引き続きやっていきたいと思っております。あと岩井委員からいつもご指摘いただいております、ハザードマップのデジタル化、こういったところも含めて推進して、また地域の皆様にもご提供していくような内容になっておるかと思っておりますので、引き続きよろしくお願ひいたします。以上で簡単な抜粋になりますけれども、来年度の取り組みについて、ご紹介をさせていただきました。よろしくお願ひいたします。

■藤井委員長

ありがとうございました。ちょっと基本的な質問を私から一つさせていただきたいのが、今のご説明のあった次年度の取り組みと、その一つ前の48の施策の具体的な関係というのは、どういうふうに考えていますか？

■事務局（進行）

はい。今回この来年度の取り組みの表について、今回の48項目のところに当てはめておりますので、今後、細かな工程表というものも、令和8年度から9、10、11の4年間にかけて実行していくような内部資料になります。いわゆる効果測定もさせていただきながら、進めてまいりたいなということで、当初の令和8年度として取り組む内容として、ここに書いてある約18の事業を取り組んでいくということになっておりますので、よろしくお願ひいたします。

■藤井委員長

これ 48 項目挙げてあるけれど、ひとまずその優先順位の高いものとして 18 項目が上がっているというふうに考えてよろしいでしょうか？

■事務局（進行）

特に次年度、恵那市の当初予算がございますが、その中で特に主要となる事業から拾い上げています。プレスリリースもさせていただいておるような内容の項目になっております。次年度恵那市の一般会計総額の予算としては、309 億 4000 万という予算の中の一部というところになっておりますので、よろしくお願いたします。

■藤井委員長

はい、ありがとうございます。委員の皆さんの方から、他は何かございますか。小木曾委員、お願いします。

■小木曾委員

はい。武並地区自治振興会会長の小木曾ですが、毎月恵那市の地域自治区会長会議がございまして、その席においてDX推進をしてほしいと。市の業務効率化のために、未だに紙ベースで資料が届くものですから、そうするとその紙を行政の方が印刷して配布されるという手間と私たちが持ち帰って、またそれを廃棄処分しなくちゃいけないという非常に手間ですから、資料自体がいわゆるデジタル化されておりますから。このように、パソコン置いていただければ、これを見て十分討論できるということですから、これも 1 つ検討していただきたいなという話をその席でいたしましたけども、今回のこの次年度の取り組みの中に入っていないものですから、ちょっと残念だなと思いました。それからもう 1 点です。高齢者が非常に各地区多いという話が自治区会長会議に出てきまして、飯地町のスマートスピーカー、買い物支援、いわゆる買い物難民とか、さっきありました病院行く足がないとか、なかなか行けないという話で、飯地町のスマートスピーカーの買い物支援というのは非常にいいものですから、13 町の町に、何らかの形で、波及というか、反映させていただきたいなと思います。

■事務局（進行）

はい、ありがとうございます。自治区会長会議のペーパーレス化というところにつきましては、ここには載せておりませんが、担当課である地域振興課とも情報共有をさせていただきまして、取り組みについて、前向きに考えていきたいと思っております。よろしくお願いたします。あと今高齢者等の買い物支援で飯地町のスマートスピーカーのお話がございました。かれこれ 2 年ほど飯地町にスマートスピーカーを設置させていただいて、特に情報配信であるとか、一人暮らしの高齢者の方の見守りというテーマで、活用を進めてまいりました。直近では、情報配信の中に、壁紙の配信で地域のお祭りの

や学校の子どもたちの様子を写真と文字で紹介したりとか、そういったものが非常に好評でございます。あと続いて来年度は、委員ご紹介いただいたように、買い物支援というものを、この飯地の地域内で、デジタルの力を活用しながら、特に買い物に出かけにくい方々に提供していこうという取り組みを考えています。スマートスピーカーを通じた注文であるとか、商品が届いたといったお知らせをさせていただいて、飯地町内には飯地商店という自治区協議会が運営する商店しか今ございませんので、そういったところで買えないような商品を、お届けするような仕組みを整えていきたいというような考えでありますのでよろしくお願ひいたします。あと、飯地町だけでなく、おっしゃるように、恵那市内には中山間地域たくさんございますので、そういったところにも、活用の実証の効果を踏まえて、横展開を令和8年度でしっかり考えていきたいと考えておりますのでよろしくお願ひします。

■藤井委員長

はい。今の話にちょっと興味ありますが、何台ぐらい配布されているのですか。

■事務局（進行）

現在、飯地町は全体で約世帯数としては、200世帯ちょっとございますが、そこに約170台、ほぼ8割5分ぐらいの世帯に現在実証として、実証実験として設置をさせていただいております。

■藤井委員長

実証実験で使っている最中の、いわゆるデータですが、どんなのやり取りがあつて、どうアクションを起こしたのか。というのはどうなっていますか。

■事務局（進行）

先般の10月頃に11日間モニタリングということで、いわゆるスピーカー使ったデータ、やり取りみたいなものをチェックさせていただいたところ、やはり170世帯のうち、スマートスピーカーで色々ものを聞いたりとか、届いたお手紙をチェックしたりとかいうやり取りがゼロという方が40世帯ぐらいございました。中には入院している方などもありますので、そのような傾向があつたのかなというところ。あとは、だいたい1日あたりのやり取り、1世帯あたりの平均は、約3回から4回のやり取りでした。多い方は1日に20回とか30回をやり取りされている方も多いというところでした。

■藤井委員長

この取り組みは先進的な取り組みだと思っておりますが、もちろん個人情報云々という話はあると思うのですが、積極的にこれで、専門家の立場から分析して、その次の段階につなげるような施策があつてもいいのかなと感じました。思いつきですけど。ありがとうございます。他に委員の皆さんありますか。岩井委員、どうぞ。

■岩井委員

はい。防災研究会という立場から一つ、災害時、能登半島地震、被災を受けて、罹災証明が最初、動き出すと思うのですけども、その罹災証明、ここで最初のところで、誰一人取り残さないっていうところが、障害のお持ちの方だとか、それから既往の病気をお持ちの方だとか、俗に言う災害時要配慮者ですけども、災害が発生すると、市民全員が弱者だと思います。そういった意味で言うと、やはり市役所へ来ないと罹災証明が受けられない、それから振興事務所へ行かないと受けられない、ということになると、かなりストレスも溜まるし、迅速な処理というのができない。ということになると、先ほどのコンビニ交付の話もありましたけども、コンビニだとかで取れるような仕組みとか、振興事務所だとか、あるいは農協さんの窓口をお借りさせてもらうとか、飯地でいうと、飯地商店に端末を置かせてもらうとか、なんかそういうことができないかなと。それは今後の、7年8年というところのストーリーを見た中で、発言したいと思うのですけども、そういった意味で、罹災証明、やっぱり最初の証明になりますので、これ保険金とか全てに関わってくる書類なので、迅速に処理ができる、ということをお願いしたいなというふうに思っています。

■事務局（進行）

はい、ありがとうございます。仕組みとして罹災証明につきましては、現在マイナンバーのサービスの中で、マイナポータルというプラットフォームがあるかと思えますけども、そちらの方で、一応申請はできるという仕組みにはなっていますが、なかなか実態とはちょっと乖離している部分がありますので、おっしゃるように、もし災害が起こったときに、市役所に行かないといけない、当然そこに急激に煩雑な業務が発生するということになりますので、その業務の動かし方みたいなどころからちょっと整理をしていく必要があるのかなと思っておりますので、今のご意見もまた参考にしながら、確認をしてみたいと思います。

■岩井委員

マイナンバーの利用も大事ですが、（罹災）写真を添付しなければならないですね。

■事務局（進行）

はい。

■岩井委員

それができない。だからまた仕組みを作ってあげないと、申請ができない。逆に言うと、受ける方も窓口に来て並ばれる、たぶん100人並ばれる、ということよりも、バックヤードの方で、例えば能登もありましたけど、よその市町村の方が来てバックヤードの処理するチームがありましたが、そういうふうになれば、かなり恵那市の職員としては、

作業量を軽減できる。

■藤井委員長

今の岩井委員のご指摘は、災害が起きたとき、起きた状態を想定してのお話だと思うのですが、その時に一般的に災害も、サイバーセキュリティの世界もそうですが、テーブルトップエクササイズですね。前回は簡単にお話ししましたが、シミュレーションですよ。対災害が起きたときのその、短い時間のスパンで何をしなきゃいけないかに加えて、今、ご指摘のあるように、少し、中規模の時間のスパンの中で、こういう、行政上の手続きが発生してみたいなところも、ある程度、シミュレーションしとかなないと多分担当者も対応できないということがあると思います。そういうところもぜひ計画の中に盛り込まれることを期待したいと感じました。ありがとうございます。

■岩井委員

地域防災計画では税務課の職員さんも入って、やる仕組みになつとると思うのですが、職員だけでできるかどうかというと、それは、今、先生おっしゃるように、ちょっと訓練をやっておかないと、災害時に大変なことになると思います。

■事務局（進行）

はい。ご指摘の通り、そういったところもちょうと担当課も含めて、事前の準備を考えてまいりたいと思います。よろしくお願いします。

■藤井委員長

他に委員の方どうですか。紀岡委員、お願いします。

■紀岡委員

恵那市社会福祉協議会の紀岡です。よろしくお願いします。17番で遠隔による対面、就労の実証ということで、オリヒメロボットということで、オリヒメの講演会、先日、私も聞かせていただきまして、ハンデを抱えた方が社会参加というところで、可能性を感じましたが、実際恵那市においては、どのような場面が想定されるかっていうところが、もし今お考えのものがあれば教えていただければと思います。

■事務局（進行）

はい。想定しているのは、例えば、オリヒメの講演会するときにもありましたけども、肩乗せ型で、日本橋のカフェでは、外国人の観光客をご案内するようなことを実際やられているそうです。ロボットが外国人の肩に乗って、日本橋周辺の古い街並み、古い観光施設であったり、お店にご案内しているというケースがあるということで、非常に恵那市の中でもですね、特に岩村町あたりの城下町とか、小さなエリアでの観光案内などは、一つの効果であると思います。さらには観光地の課題として、いわゆる観光案内人の

方々と言われるような、担い手が不足しているという状況がございますので、そこにも関わっていくことで、担い手不足を解消したりとかというところの中で、逆にそういった障害を持った方が解決するような仕組みもできないかということで、そのようなフィールドなんかは一部想定しているというふうに聞いております。

■藤井委員長

非常に興味深いお話ですね。私が知っているのはお店の中で、動いているものだったので、今こういう感じになっているんですね。

■事務局（進行）

そうですね、ちょうどリュックのようなものを背負って、肩にオリヒメロボットが乗ってここでガイドをして回る、そんな状況でした。

■藤井委員長

技術の面ではすごく進展はしていますが、今、ご指摘のように、対応する人をどういうふうに育成してある程度のレベルにしてかなきゃいけないか、そこらへんがたぶん結構大きな課題というか行政上の仕事になってくると思います。よろしいでしょうか。他に、ご意見ありますでしょうか。よろしいですか。それでは、次年度の取り組みについて、これまでということとさせていただきます。では一旦事務局にお返しします。

■事務局（進行）

はい。ありがとうございます。それでは、本日ご用意させていただきました、議事は以上の3つというところがございますので、ありがとうございます。計画につきましては、皆様慎重、審議、色々な角度からのご意見、賜りましたので、これをもって令和8年度からスタートする恵那市の新たなDX推進計画として、しっかり進行管理含めて、推進してまいりたいと考えておりますのでよろしく願いいたします。それでは、続きまして、議題としてはその他というところになりますけども、本日資料No.6として、現在ソフトバンクさんと包括連携協定を締結させていただきながら、デジタルに関する取り組みを推進しております。今年度連携協定のもとで取り組んだ、ちょっとたくさんになりますけども、一部抜粋をしながらご紹介をさせていただきます。

3. その他

(1) 連携協定取組状況について 資料No.6

[事務局から資料No.6に基づき説明]

■DX推進監

はい。今日現在は恵那市のDX推進課の竹内です。改めてよろしくお願いします。私もこういう形で自治体の方々とご一緒するのは初めてということもありまして、この取り組みもですね、テーマとしては、職員の方にちゃんと自主的に、選定いただいて、それをちょっと後押しして一緒にやっていくというような形でございますので、全てがソフトバンクのサービスというわけではないですけれども。改めて一緒にやってみて難しいなと思うのは、やはり市民の方々へのサービス向上というものと、それをやる余力を生み出すために、職員の働き方改善というものの両輪をちゃんとバランスよくやっていると、負荷がどっちかに偏ってしまうとですね、どっちかが疲れてしまうというのがありますので、そこのバランスが、非常に難しいなと思いつつながらですね、皆さんとご一緒させていただきました。気持ちとしてはもっと市民の方が直接見えるところというのにはありましたけれども、その下地は十分できあがってきたかなと思いますし、来年度からよりその重要度も高まってくるかなと思います。最近、ご意見にもありますように、やはりコンビニ交付なんか出てきて、デジタルで自分の近くに来れば来るほどやっぱり楽になりますね。究極の形が、手元のスマートフォンでという形になってくると思います。持ってはいるけれど、やっぱ敷居の高さ難しさがあるので、恵那市はここからですね、さらに一段高いところにチャレンジしていくことになるかなと思います。なぜそれがチャレンジになるかという、恵那市は他の市町村よりも非常に進んでいる環境、進んだ考え方をしておりますので、他を真似してからやっているという状況ではないということですので、今日ご参加の委員の皆様も、一緒になって考えてより良い方法を作っていたらなと思っております。その一つひとつを具体化するということは、また今後、私は役目としては今月末までとなりますけれども、また新しいメンバーも来ますので、より恵那市の皆様のデジタル推進に連携協定が役立てばなというふうに思っております。非常に、いい経験をさせていただきまして、いい下地作り、それから、冒頭にあったSTEAM教育みたいなですね、次世代教育につながるようなところ、ご一緒させていただくことができましてありがとうございます。皆様もこれからぜひ、頑張ってください、ありがとうございます。

■藤井委員長

竹内さん、ありがとうございます。私も個人的にいろいろお話しさせていただきまして、楽しかったです。ありがとうございます。

■事務局（進行）

はい。これよろしいですか、何かご質問とか、ご提案とかございましたら、取り組みに関して。はい、岩井委員お願いします。

■岩井委員

リモートワークの話が出てまいりましたが、実際何件ぐらい、何時間ぐらいリモートを市の職員は実施されましたか。

■事務局（進行）

現在、市の方で調達しているリモート Wi-Fi の端末というのが 30 台ございます。今ほとんど毎日、手元に残るのが 3～4 台ぐらいというような状況で回しています。例えば、市役所の広報担当なんかは外へ出て取材する機会が多いのですから、そういったところで使ったりとか、もちろん、子育て中の職員が在宅勤務で使ったりとかというケースもあります。

■岩井委員

それデータで、その KPI まで追跡するかどうかは別として、示した方がいいと思います。

■事務局（進行）

はい。

■岩井委員

市としてはこういうことを考えてるんだよ、よそではないよっていう、やっぱ大学生が、こういう市役所だったらいいなっていうふうに思ってもらえれば、いいと思うんですよ。もう少し上手に、竹内さんじゃないけど、上手に、可視化されておけば。

■事務局（進行）

ありがとうございます。

■藤井委員長

都市としての規模の自治体で、こういう取り組みってやっぱり先進的と言えますか。

■事務局（担当）

はい、ありがとうございます。そうですね、担当者も、認識としては県内、それ以外県外も含めてですけども、少ない、マイナーな方だと思っております。

■岩井委員

PR して欲しいですね

■事務局（進行）

はい。やってみると本当に、岩井委員ご指摘のように、いろんな場面で使い道があるなというところが分かってまいりまして、例えば本当に何か災害が起こって、物理的なネットワークが途絶えたときに、こういった無線のネットワークが活躍するとか、そうい

ったところなんかも含めて、いろんな使い方が見えてきたという状況でございます。

■岩井委員

何でもいいので試行、副市長さんなんかは自宅で1日勤務してみるとかいいと思いますよ。市役所の中での災害が、訓練としてできたら。

■柘植副市長

実際、災害対策本部を場合によっては設置するんですけども、災害対策本部自体も、遠隔、リモートで参加できるような、そんな仕組みも今実際作っております、実際遠隔地で、岐阜から通っているような職員もいらっしゃいますけども、貸与された業務用スマホで遠隔で参加するというようなこともやっております。それからあとですね、やっぱりフリーアドレスって言われて、どこで座って仕事してもいいというような働き方を本格的に庁内で始めつつあります。それに伴ってやっぱり固定電話だったものがスマホに変わってきたというところで、ノートPCと合わせてですね、働き方に大きな変革を生みまして、実際スマホを持ちながら現場に行っているというところで、前であったら固定電話だったら担当者が今現場や出張に行っておりますのでと断る事案が多かったんですけど、今は、担当者も現場で取れるので、やっぱりそこはダイレクトで、いろいろ市民の皆さんと、話ができるというところで、かなり市民サービスの面でも、大きく寄与をしているなというふうに感じております。

■藤井委員長

はい。ありがとうございます。他に何か、ありますでしょうか。よろしいですか。それでは、お願いします

4. 閉会

■事務局（進行）

はい。それでは、本日ご用意させていただきました、議事、テーマについては以上でございますので、誠にありがとうございました。以上で会議を閉じさせていただければと思います。今年度は、DX推進計画策定の年ということもありまして、4回会議を1年間かけて開催をさせていただきました。本当に皆さんのご協力のもとで、特に、これからの人口減少社会の中で、地域の暮らしの課題解決、デジタルを使って、挑戦していくようなテーマでお話をさせていただいたかと思います。今後も、引き続き、計画を実行段階として進めていく上で、実りあるものとしていきたいと考えておりますので、是非引き続き、ご支援、ご助言、応援などいただければありがたいなと思っております。本当に1年間、ありがとうございました。